

八戸市史だより

第15号

発行日 平成23年6月30日 八戸市史編纂室

江戸時代八戸の社会と文化を見る

近世資料編 発行

市史編纂室では、新編八戸市史『近世資料編』を発行します。本巻は、近世（八戸藩政時代）を対象に、社会と文化に焦点を当てた一冊です。

当時の八戸は、飢饉や災害に苦しみながらも、多くの人々が俳諧や文芸に親しみ、和算や暦を学び、馬術や打毬の技を競い、そして安藤昌益が、周囲との交流の中で、その思想を培いました。

本巻では、武家の結婚や年中行事、藩学校での教育、地震・津波・火事・凶作など災害の記録、俳諧・漢詩などの文芸、和算・暦学や馬医などの自然科学、軍学や武芸、信仰を集めた宗教、八戸における昌益の動向と彼をめぐる人々など、幅広く史料を収録しました。

また、これまで紹介することが出来なかった重要な史料として、盛岡藩領だった市川の新田開発と、八戸藩士の各知行高が分かる分限帳を取り上げました。



付図「道中双六」(部分)
(B2 判カラー)

目次

- 第1章 生活と教育
 - 第2章 人々を襲った災害
 - 第3章 文芸
 - 第4章 自然科学
 - 第5章 武芸
 - 第6章 宗教
 - 第7章 安藤昌益
 - 補遺 市川新田分限帳
- B5版、621ページ、
口絵カラー、本文単色

本文には、視覚的にも古文書の雰囲気を楽しめるよう、いきいきと描かれた八戸の俳人百名以上の姿や、昌益にまつわる史料の原本写真などを配し、また、各章末へは、史料をより深く掘り下げて、読み解く面白さをわかりやすく解説したトピックスも、掲載しています。

さらに付図として、八戸から江戸までの道のりをすころく形式に描いた「道中双六」と、当時の市川の土地利用などが描かれた「五戸市川新田所図」の二枚が大判カラーで付属します。

ぜひ本巻を開き、郷土八戸の生活や文化に触れ、歴史へと想像を巡らせてみてください。本巻には、その材料がぎっしりと詰まっています。



「俳諧風雅帳」より

八戸近世クイズ (答えは裏面にあります)

- (1)八戸から江戸までの参勤交代の道中で、通らなかった町は？
A.盛岡 B.仙台 C.福島 D.宇都宮 E.大宮
- (2)八戸から江戸まで、参勤交代では16泊17日程度かかりましたが、飛脚は通常どの程度かかったでしょうか？
A.3泊4日 B.5泊6日 C.7泊8日 D.10泊11日
- (3)八戸藩主とその趣味・特技に関して、組み合わせが適当でないものは？
A.二代直政(漢詩文) B.三代通信(馬術)
C.六代信依(大小暦) D.七代信房(和算)
- (4)安藤昌益に関することで正しくないものは？(複数)
A.職業は医師で、息子とされる周伯も医師になった。
B.生まれは秋田の大館だが、八戸で生涯を閉じた。
C.五人家族で、八戸城下の櫓横町(十三日町)に住んでいた。
D.封建制度を否定する思想のため、門人には武士などの支配階級はいなかった。
E.人はみな、道徳に優れた「聖人」となるべきであると説いた。

部会短信

(平成23年上半期)

原始・古代・中世部会

平成22年度は『中世資料編』の原稿執筆がありました。今まで積み重ねてきた史料が、八戸市史としての姿を見せ始めたそのとき、東日本大震災が発生しました。執筆委員5人中3人が仙台市在住者のため、その被災状況が心配されましたが、6月の部会会議において全員無事に顔を合わせることができました。今後は、今までどおりのメンバーで24年度刊行に向けた『中世資料編』原稿の編集作業と、『通史編』の原稿執筆を行う予定です。

近世部会

『近世資料編』の刊行に向けた校正作業が大詰めを迎えている最中に、東日本大震災が起きてしまい、印刷に関する原料の供給不足なども危ぶまれましたが、無事刊行することが出来ました。これと並行して、『通史編』の原稿執筆も〆切を迎えました。検討会議は、震災のため若干の延期を余儀なくされましたが、今後は提出された原稿を元に、編集作業を進めていくこととなります。『通史編』は平成25年春刊行予定です。

近現代部会

近現代部会では、テーマ別の資料編『都市計画編』と『戦争編』の2冊の編集作業を行っています。2巻並行しての作業は、困難なものがありますが、平成23年末の刊行に向けて、原稿の校正や口絵の選定に日々邁進しています。また、戦争遺跡であるトーチカの測量や、南郷歴史民俗資料館の戦争関係遺物の調査なども実施しました。

さらに、今年度は『通史編』の執筆の年でもあるため、月1回程度の会議では、目次案の編成や内容について話し合いを進めています。

自然・民俗・文化財部会

文化財班は、23年度印刷の『(仮称)文化財編』の刊行に向け、原稿の読み合わせを月1～3回のペースで行ってきました。読み合わせでは、原稿の表記の統一を図り、用語の解説を工夫するなど、読者にとってよりわかりやすい表現になるように話し合いを重ねています。この一つ一つの部会での積み重ねが、本編の刊行に活かされていくよう、編集作業は続いています。

編纂室カレンダー
二十三年四月～五月

- 4 / 2 自然・民俗・文化財部会「文化財編」執筆者会議
- 4 / 7～8 東北地方太平洋沖地震の余震により停電 復旧
- 4 / 16 自然・民俗・文化財部会「文化財編」執筆者会議
- 4 / 17 近・現代部会会議
- 4 / 26 平成23年度第1回八戸市史編纂委員会
- 4 / 29 原始・古代・中世部会中世班 神社棟札等調査(七戸町)
- 4 / 30 近世部会 神社棟札等調査(清水寺他)
- 5 / 7 近・現代部会「戦争編」打合せ
- 5 / 12 原始・古代・中世部会「通史編」打合せ
- 5 / 14 自然・民俗・文化財部会「文化財編」執筆者会議
- 5 / 17 平成23年度第1回八戸市史編集委員会
- 5 / 18 原始・古代・中世部会「中世資料編」打合せ
- 5 / 21 自然・民俗・文化財部会「文化財編」執筆者会議
- 5 / 23 近・現代部会「戦争編」打合せ
- 5 / 29 近世部会「通史編」執筆者会議
- 5 / 31 「通史編」打合せ/視察受け入れ(むつ市)

クイズの答え

- (1) E.大宮
- (2) C.7泊8日
- (3) D.7代信房(和算)
(信房は、俳諧を好み、俳号を互扇楼畔季、五梅庵などと号した。)
- (4) B、D、E
(昌益は秋田大館の二井田で60歳で没した。
門人には福田六郎、北田忠之丞ら藩士もいた。
昌益は、「聖人」とは都合よく法や制度を定め、働かずに被支配者の労働をかすめ盗る存在であると批判した。)



清水寺での調査の様子

天正9年や慶長18年など中・近世の棟札を計測、撮影しました。

是川縄文館
マスコットキャラクター
いのるん



発行・編集

八戸市史編纂室 〒031-0022
八戸市糠塚字下道2-1
電話&FAX 0178-73-3234